

## ニュータウン地域のお祭り連携運営 ～ひじり館ふるさと夏まつりに参画して～

プロジェクトゼミ（公民連携ビジネス公民連携による地域/社会貢献ビジネス）

（指導教員 片桐 徹也）

ひじり館夏まつり 企画チーム：豆生田泰樹、許田健斗、平林雄太、高橋健太、加藤壮一郎

当日スタッフ：黒柳淑雅、永野泰寛

実施日時：2013年8月24日、25日

大学の属する多摩市聖ヶ丘地域のコミュニティセンターの名を冠した、「ひじり館ふるさと夏祭り実行委員会」との連携で、24日のビンゴ大会、25日の射的大会に担い手として参画致しました。

この企画は、多摩大学のサークルで「お金を稼げるボランティアイベントを目指す、『2joint』と、片桐プロジェクトゼミの両方に属している豆生田がボランティアを経験し学びたいと、「ひじり館」に相談したところ、夏祭りへの関わりについての話を頂いた

ものです。しかしサークルだけでは同志（主催者側に回りたい人）人が集まらず片桐ゼミに企画を持ち込んだことからスタートしました。結果、お祭り当日参画の一時的な「点」の関わりのみではなく、持続的な「面」の関わりを目指したい！との言葉に許田、平林、高橋、加藤の4人が名乗り出ました。



同志を求める豆生田

### ふるさと夏まつり実行委員と片桐ゼミ生の想い

私たち片桐ゼミの夏まつり企画チームは、「ふるさと夏まつり」への参画について、単に楽しいイベントを開催するの

ではなく、「地域の課題や問題の解決に繋がるような貢献」に寄与し、そのことによる学びも得たいと考えていました。そこに「ふるさと夏まつり実行委員会」より、例年行っている「やぐらステージイベント」を若者のアイデアでリニューアルしたいと意見を頂いたため、私たちは「聖ヶ丘地域の現状」を学び、何をすべきかを考える事にしました。そこで分かったことは、当該地域は、「子育て層の流入があり子ども世代は多いが、若者層の流出が多いことが分かりました。つまり成人すると地域を離れてしまう実状があります。そこで私たちは、子ども達が地元地域に関心を持つことで、流出を防ぐきっかけづくりをしたいと考え、「夏まつり」にて行うイベントを通じて、子ども達が“将来地元に関わり活躍したい”と思うきっかけとなるようなものを検討・実行することと決めました。

### ふるさと夏まつり実行委員

マンネリ化している ステージイベントの若返り

## 思い悩む日々

「ビンゴ大会」については、雰囲気を変えるための企画、進行をして欲しいというのが実行委員会からの要望でした。そこで例年のビンゴ大会のビデオを確認、どんな工夫で特に子ども達に喜んでもらえるかチームで何度も話し合いました。

「ステージイベント」に関しましては、昨年度までは空白だった時間帯に、私たちのオリジナルイベントを挿入するということを白紙から企画するというので、どんなイベントをすれば私たちの目的・実行委員会の目的が達成されるか非常に悩みました。



みんな頭を悩ませている図

ビンゴ大会は、子ども達に歳の近い学生が進行を行う事は非常に効果的であるはずだと考えましたが、当たる商品に問題があると考えていました。昨年度までは、商店街内からの調達物が多く、私たちや大人が貰うと嬉しいお米や電気製品などが主流であり、子ども達にとってはあまり魅力的ではありませんでした。そこで思い切って実行委員会へ外部調達で子供向け商品も入れることを提案し、承諾して頂きました。商店街の考えや、大人の事情などを実感・体感することで、非日常の学びを得ることが出来たように思います。

ステージイベントは最初の想定以上に難航しました。甘かったと思います。完全に子どもだけの参加にすることは決まっていたのですが、カラオケ大会開催！ いやいや外に音響機械を持ち出せない。というやりとりが繰り返され、以後は煮詰まってアイデアが出てこない。チーム対抗のレクリエーション大会を行おう！ レクリエーションとは、体を動かすゲームとか遊びのようなものです。やぐらを中心に子ども達をチーム対抗にいくつものゲームで競う。このチーム対抗レクリエーション大会を実行委員会へ提案した所、反応は薄く、期待はずれムードが。どうやらイメージが沸きにくいイベント＝誰も積極的に賛成出来ないという雰囲気となり場を凍らせてしまいました。

先生からのダメ出し、

「おもしろくない！ やらせれ感しか感じられない！」

そして、ついに先生から「おもしろくない」の一言を貰ってしまいました。その後は、どうということが子ども

達を楽しくさせるのかを研究するため、「ひじり館」内にある児童館の協力を得て、いくつかのアイデアを試行してみました。そこで特に反応の良かったのが「水鉄砲で行う射的ゲーム」！これで、本番は絶対に盛り上がる！ そう確信することが出来て無いようを決定することが出来ました。





射的の体験



## 最後の地域企画会議

ついに先生からのお墨付きもいただき、ようやく私たちの企画がまとまり、なんとかイベント前最後となる

「実行委員会合同企画会議」の日を迎えました。「水鉄砲で行う射的」を委員に体験して頂き、とても好感触でした。「最初、レクリエーション大会をやるって言われたときはどうなるかと思ったけど、これならいける！」と本音もポロリで、赤面でした。



後列：多摩大学・片桐ゼミ生 夏まつり企画チーム  
前列：ひじり館ふるさと夏まつり実行委員会の皆様

## 8月24日 ビンゴ大会

8月24日のビンゴ大会、天気にも恵まれ、多くの参加者に恵まれました。

地元の大人達には道具の移動や小学生にはビンゴのガラガラを回してもらい。

約500人の参加者へ景品・参加賞を配布しました。ここで大活躍したのが私たち企画チームのリーダーであり発起人の豆生田。得意の「トーク力？」でビンゴ大会を盛り上げ、スムーズな進行を行いました。



開催前、楽しみに待っていてくれました



地元の小学生の協力

ビンゴ大会で私たちが工夫した点は、

- ・景品に等級を付けずに番号を振り分けた
- ・商店街の物と外部の物を織り交ぜた
- ・外部の物は子どもが喜ぶ大きな水鉄砲や大きなぬいぐるみなど
- ・特定の番号に当たった方（大きな袋に入った景品やインタビューなど）には壇上に上がって頂きインタビューを行うなど視覚的な部分に訴えました。



参加賞配布で大パニック！



## 8月25日 チーム対抗射的大会

8月25日のチーム対抗射的大会も天候に恵まれました。前日のビンゴ大会よりも緊張したのがこのイベント。

私たちの目的が良く表されているイベントのため緊張と不安と楽しみでいっぱいでした。先着60人の子ども達限定でしたが、募集開始から数分間で埋まりました。内容は、60人の子ども達を10人ずつ6チームに分け、2部構成で3チームずつ行います。子ども達は列に並んで2回水を打ったら次の人に交代、そして、お面を吊るしてあるトイレットペーパーを狙い、落ちた数をポイントとして順位を競います。

私たちは準備の段階でトイレットペーパーに色付きのテープを付けておき、カウントしやすく工夫しておきました。1位の組には「ボードゲーム」、2位の組には「パズル」、3位の組には「折りたためる水筒」、4～6位の組には「お菓子・文房具の詰め合わせ」を用意しました。

イベントは大盛り上がりで子ども達を大人が応援して一緒に盛り上がる。最初の企画段階では、子どもだけ対象にしては全体の盛り上がりには支障が出るのではとの声が出ていましたが、私たちの狙い通り、『子ども達の楽しんでいる姿にこそ大人は喜びを感じていてくれました』。今回このイベントは「ふるさと夏まつり」において、子供向けイベントへの学生企画・参画は初めてというチャレンジでしたが、地域からの反響も多く、結果、来年度もぜひやってほしいとの声を頂くことが出来て、達成感に満ち溢れています。



射的は子どもに人気の遊び



お面をトイレットペーパーで吊るしています



商品配布



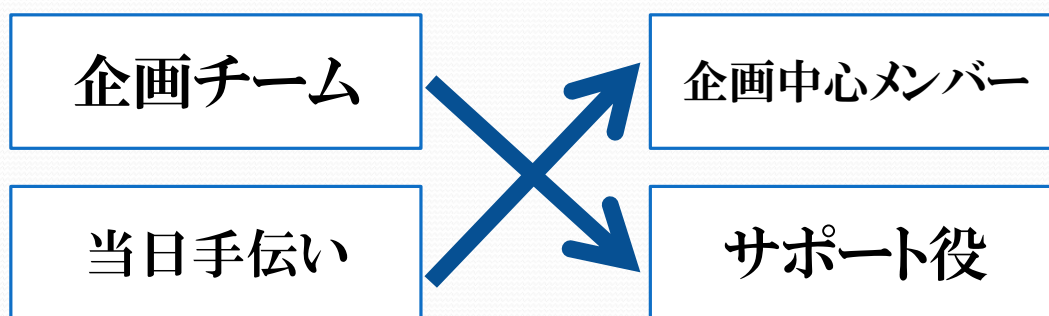
協働した聖ヶ丘中学校の生徒さんと集合写真

## 成果・2014年に向けて

# 成果

- ・企画・マネジメント力がついた
- ・多くのアイデアで子どもたちの満足感を最大限に引き出した
- ・主催者側の希望と学生側の希望していることで双方が納得する形でイベントを開催できたこと。

## 2014年に向けて



今回、試行錯誤の連続の体験でしたが、チーム（仲間）で行うことで、一人では決して出来ないパワーを発揮できたことにより実現できたこと、また、地域の主体（まつり実行委員会）と連携し、話し合いを重ね、経験ある先生からのアドバイスももらうことで、地域、学生、大学のそれぞれの八久和 r 分担が出来たこと、双方が納得出来るプロセスを体感出来たこと、単発で行うのではなく、次年度への継続にも自信が持てたことで、自分たちにとっての大きな経験を得ることが出来ました。

ひじり館まつり実行委員会の皆様には、このような機会を与えていただき、また、忍耐強く見守っていただいたことに深く感謝いたします。

私たちも、地域におけるイベントを企画構想、そして実行することで、地域社会に触れることが出来たと共に、様々な経験をさせていただいたことで、少しでも成長することが出来たと思います。今後もこのことをステップにして、学び続けると共に、自信も深めて行きたいと思います。

この秋学期には、当日スタッフとして参画してくれたサークルのメンバーがゼミのメンバーに加わりましたので、来年度は、さらに充実した体制でお関わりすることが出来る体制を築けたと思います。経験を活かした現場重視で、かつ後輩にも伝授しつつ継続的にお関わりできると思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。